

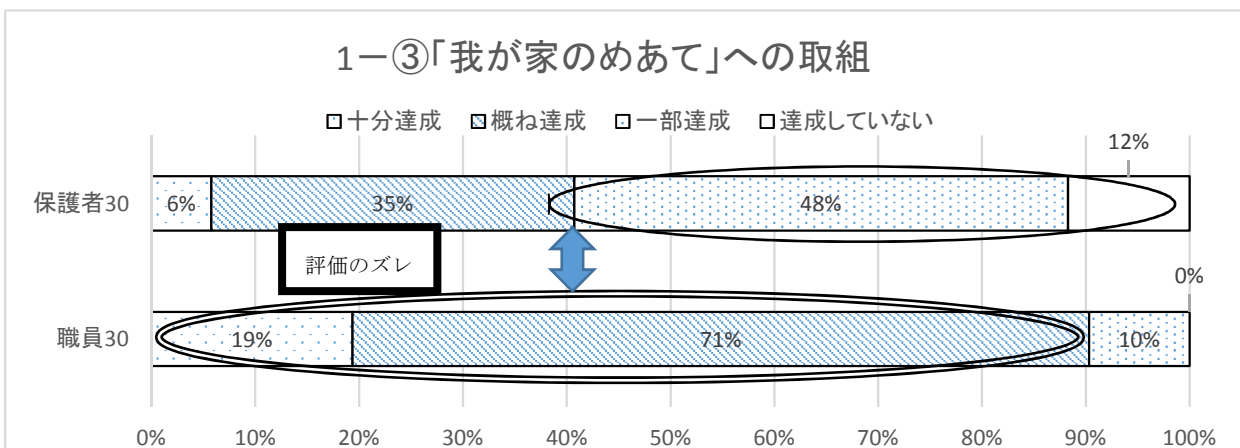
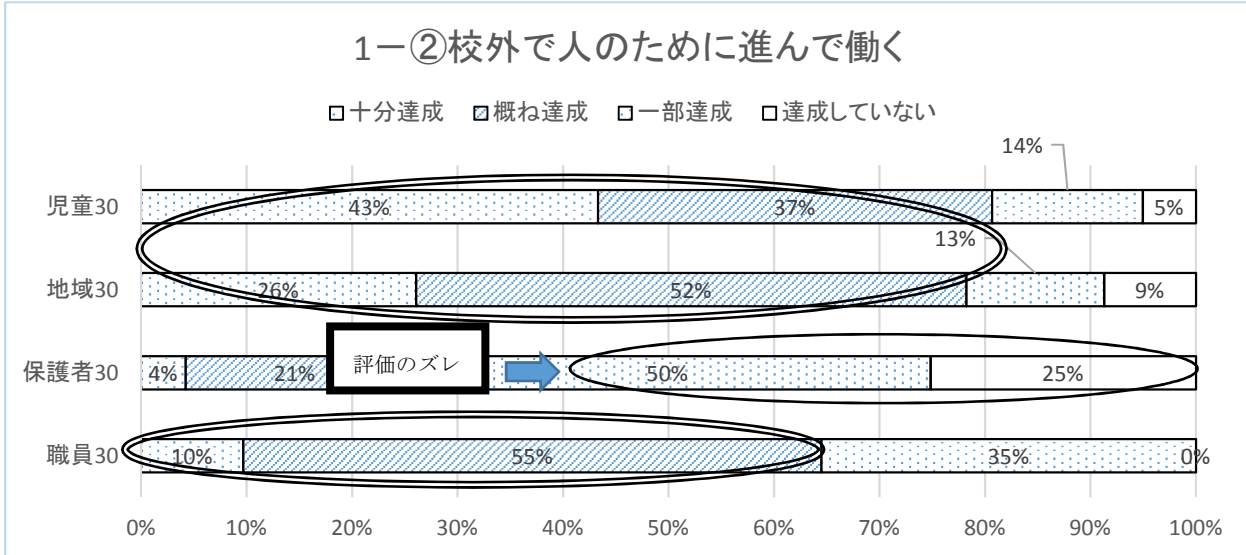
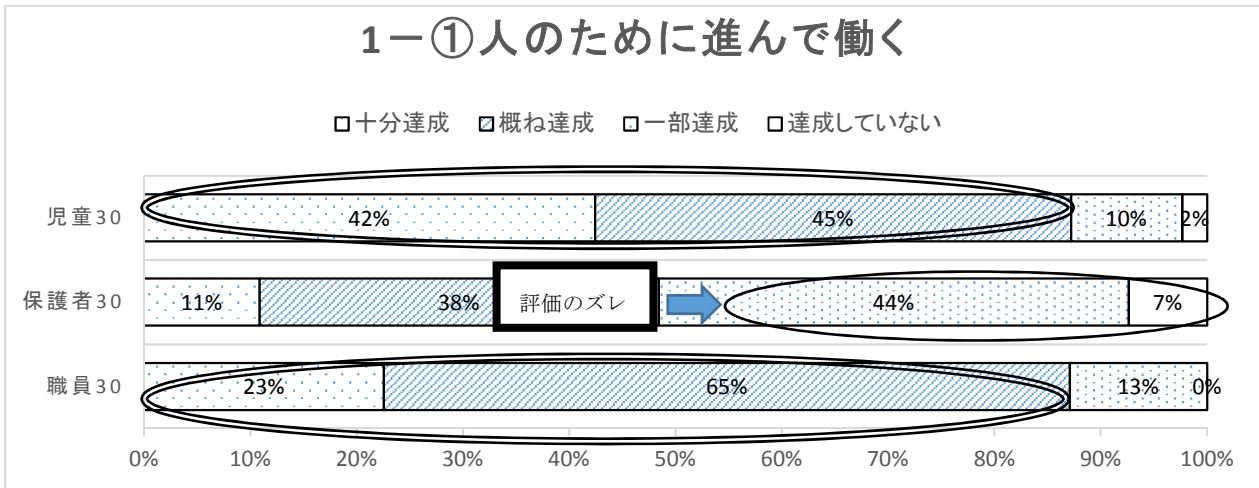
平成30年度 学校教育活動に関するアンケート結果

仙台市立七北田小学校

回答数 577 / 650
回答率 88.7%

= 枠… プラス要因 - 枠… マイナス要因・検討要因

1 本校では今年度、学校・家庭・地域の協働型学校評価の目標を「もっと人のために働こう！」として取り組んでいます。



【自由記述：保護者・地域・職員】

- 1年生で入学した当初は理解していなかったようですが、先生方や上級生のおかげで学校の目標である「もっと人のために働こう」とかは意識が変わってきたように思います。来年の1年生になる子たちが、七北田小学校に入学したいと思えるようなカッコイイ人にならなきゃ・・・などいろんなことにトライしようと発言が変わってきました。また、上級生がしてくれていたお世話にも感謝しているようで、6年生の卒業を悲しんだりさみしがったりするようなことも言っています。先生方の指導や上級生のおかげで小さい子でも意識が変わり、1～6年生の取り組みすべてがすばらしいと思います。七北田の風土が素晴らしく、通学できることに感謝しています。
- 地域の人のためになるような場に参加するようにしていきたいです。
- もっと子供たちに花植えや窓ふき、白壁清掃など学習の他にも学ぶことがたくさんあると思うので親だけでなく子供たちにも進んでやって欲しいと願います。
- 地域の人のためになるような場に参加するようにしていきたいと思います。
- 「地域の人のために」や「人のために働く」という取り組みが多すぎる。他人のためよりも自分のために考え働くことができる子になって欲しい。
- 転入生のため強化週間などへの理解が遅れてしまいました。
- 家庭でのお手伝いは夏休みなどのめあてにした時は行ったが、継続できていない。学校で「自宅でのお手伝いを行った時にマルをつけるカード」などがあると良いと思う。
- 家庭でのお手伝いは、自分のやることができたら余裕があった場合に他の人を手伝ってあげられるようになって欲しいと思っているので特に親からは何も言いません。
- 地域の人のためになることとは具体的にはどのようなことを期待されているのか理解できない。「我が家のめあて」「人のために働こう強化週間」を知りません。子供から聞いていないのかも知れませんが更なる広報が必要かと思えます。
- 家庭でのお手伝いは自分の気の向いたときに好きなことだけをしています。本当に「人の役に立つ手伝い」ではないという点で達成できていません。
- 「みんなのためになることをしよう」とクラスで何度も呼び掛けた。特に、集団行動の中で、自分の思いだけを優先して行動する児童には、個別に声を掛けて気付かせる場面を設けた。また、自分のやるべきことが素早く終わる児童には、周りを見て何かできることはないかを考えさせるようにした。成果としては、児童が友達に声を掛けたり、周りを見たりして、何かできることはないかを考えている姿が見られるようになったことである。しかし、他人に任せきりで、自分自身は行動に移さない児童もいる。
→改善策として、皆のために動いた児童への称賛を引き続き行うことや、行動に移さない児童に具体的な行動を示し、実行した場合に称賛する等の手立てをしていきたい。
- 「みんなのために」という意識を持たせたくて、清掃活動も積極的に行わせた。全体としても、その意識は浸透しており、努力している姿が見られる。しかし、声を掛けられなければできない部分も多く、校外学習等になると、自分の楽しいという気持ちを優先させてしまい、迷惑をかけたり、自分勝手な行動をしたりすることが多く見られる。
→清掃活動や、様々な行事をきっかけにして、「みんなのために」という意識を広げていきたいと考える。
- 協働型重点目標「もっと人のために働こう！」について、まだまだ取組みの意識が足りないように感じる。「自分から気付いて動く」というのは子供たちにとって難しいことではあるが、一度やったことは繰り返してできるように習慣付けたい。
→活動のモデルを分かりやすく示す。働いている子供たちを褒める。
- 学校行事等で、高学年としての役割（与えられて仕事）に積極的に取り組む姿が見られるが、自分で気付いて行動に移す力はまだまだ弱い。
→「こんな時にどうする？」というようなスキルを、プリント等で学ぶことも必要なのかなと思う。

- 自分から「働こう」とする意識を学級の子供たちに身に付けるのがまだ足りていないように感じる。行事などを通してだけでなく、普段の生活から、自分中心ではなく、周りを見て「気付いたり」、「行動したり」することを意識させていきたい。

→普段の掃除、おはようデー、朝マラソンなど、「自分たちにできること」にまずはしっかりと取り組み、働くことに対する意識付けを引き続きしていく。

- 「みんなのために」進んで働く姿が見られたが、自分から気付いて動く姿勢はまだ不十分。「気動」を合い言葉に、だいぶ意識は高まってきたが・・・。

→来年度も「気動」という言葉は使える。

【学校運営反省会から】

6年：「気づき動く・気動」を合い言葉に生活させてきた。どのレベルまで求めるべきか悩みながらの活動だったが、児童は積極的に働くようになってきている。

5年：1日のふり返しシートに「ひとのために…」を毎日記入させた。記述にマンネリ化がみられ、子供たちの積極的な取り組みには結びついていない。

4年：学年で清掃に取り組んだ。ほめることから始め、自分たちで動けるように声掛けした。

3年：総合の学習の中で、年配の方に接し、人のためにという意識は育ってきている。

2年：自分の役割を自覚して係や当番活動に取り組ませた。

1年：自分のことは自分で意識して生活させてきた。個人差が大きくなってきている。

いさけ：自分のことを一生懸命している。人のためには意識付けが難しい。

【学校評議員・学校関係者評価委員会から】

- 私たちも声かけをして地域での活動を一緒にやっていきたい。
- 子供会活動の資源回収は、子供よりも大人の方が一生懸命やっている印象がある。子供が自主的にやっている姿がほとんど見えない。
- 子供たちはとてもよくやっている。
- 評価に保護者とのズレが生じていることに疑問があり問題である。保護者の評価が低い点について、お母さんたちは忙しすぎて、つい「早く、早く」と言ってしまうたり、先にやってしまうたりしているのではないかと。また、子供と関わる時間が少なく見ていなかったり、仕事をやらせても褒める時間がなかったりするのではないかと。子供が働く喜びを実感できるようにしていきたい。このズレをどう解決していくのか、子供の姿を皆に広報するなど意識を持ってもらうように努めなければならない。
- 評価のズレについて、親になって初めてこれを認識できるのではないかと。保護者の求めている姿、期待値とのズレによるものと思われる。「取組を知らない」というのはどうなのか。
- 保護者の思いとは、「お母さんのために働く」という意味合いがあるのではないかと。母は待って欲しくないが、学校では子供が働く様子を待っている。「待ち」の気持ちがあるかどうかではないかと。母にしてみれば仕方ないところでもある。待ちながら受け入れるということが大切であろうと思う。

【 学校から 】

- 「人のために進んで働く」では、児童 87%、教員 88%が十分に達成・概ね達成としており、とても良好な結果になっています。しかし、一方で保護者は 51%が一部達成・達成していないとしており、児童・職員と保護者間で評価のズレが生じています。
- 「校外で人のために進んで働く」においても同様に、児童・職員 81%が十分に達成・概ね達成としており、とても良好な結果になっています。しかし、一方で保護者は 75%が一部達成・達成していないとしており、児童・職員と保護者間で大きな評価のズレが生じています。児童が学校で見せる姿と、家庭に帰って見せる姿の違いが現われているのではないかと考えられます。学校内だけでなく、学校外でも人のために進んで働くという姿こそが協働型重点目標「進んで働く」の求めるところと考えています。
- 「我が家のめあて」においても、職員が 90%を十分達成としているが、保護者は 48%が一部達成・12%が達成していないとなっています。保護者の皆様には、厳しく自己評価されたのか、評価の場面に遭遇しなかったのか、機会を設定できなかったのだと思います。今後の取組次第では変化していく可能性があります。学校での取組について、保護者から「知らなかった」という自由記述がありました。協働型重点目標の広報・啓発活動により力を入れてまいります。